



おいでませ  
あやかし亭

城

VIPなお七様  
×  
ショタ仲居



ようこそ  
おいでくださいました



噂以上では  
ないが……

……なんと



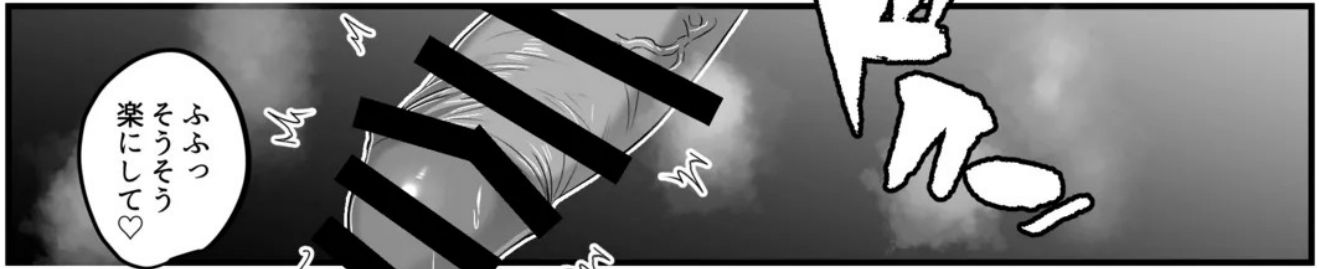
当旅館は  
日々の喧騒から  
離れて

のんびりと羽を  
伸ばしていただく  
場所ですから

ふふ  
緊張して  
はるんです？

どうぞ  
ごゆるりと  
お過ごしやす





ふふっ  
そうそう  
楽しんで♡

ドッ



うんっ

あら  
琥太郎  
見てないで  
ご奉仕せんと♡



し……  
失礼します……

くちゅ



うほおっ♡  
ダブルラブラ♡

ちゅ

ちゅ



とある  
情報通の間に  
まことしやかに  
語られる  
秘密の宿  
あやかし亭

そこでは  
愛らしい  
美少年たちが  
たつぷりと  
おもてなしを  
してくれるという



うむうむ  
噂に違いなし♡



じわじわ  
あやかし亭の記憶が  
朧げになるのだという

ズツ...

あ...



しかし不思議な  
ことに

そのことを  
公にしようと  
した者は



ツ/ツ♡

ネットにも  
そのような  
情報は二切なく

楽園のような  
薄ぼんやりとした  
記憶だけが  
残るそうだが

ならば良い♡  
今この瞬間の快樂を  
存分に楽しもう

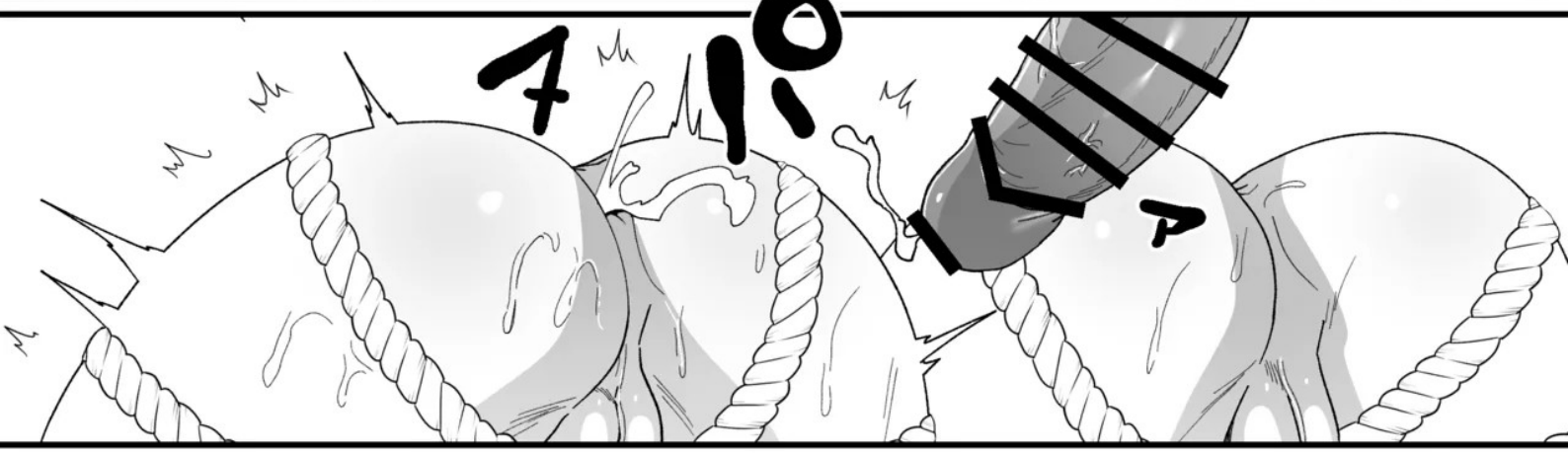
あ♡

この尻肉の  
やわさを♡

ドキュッ♡  
ドキュッ♡  
ドキュッ♡  
ぽんぽん♡

♡ちゅ♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡ちゅ♡

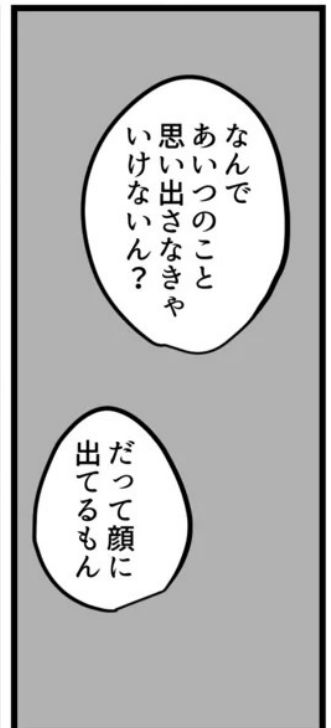
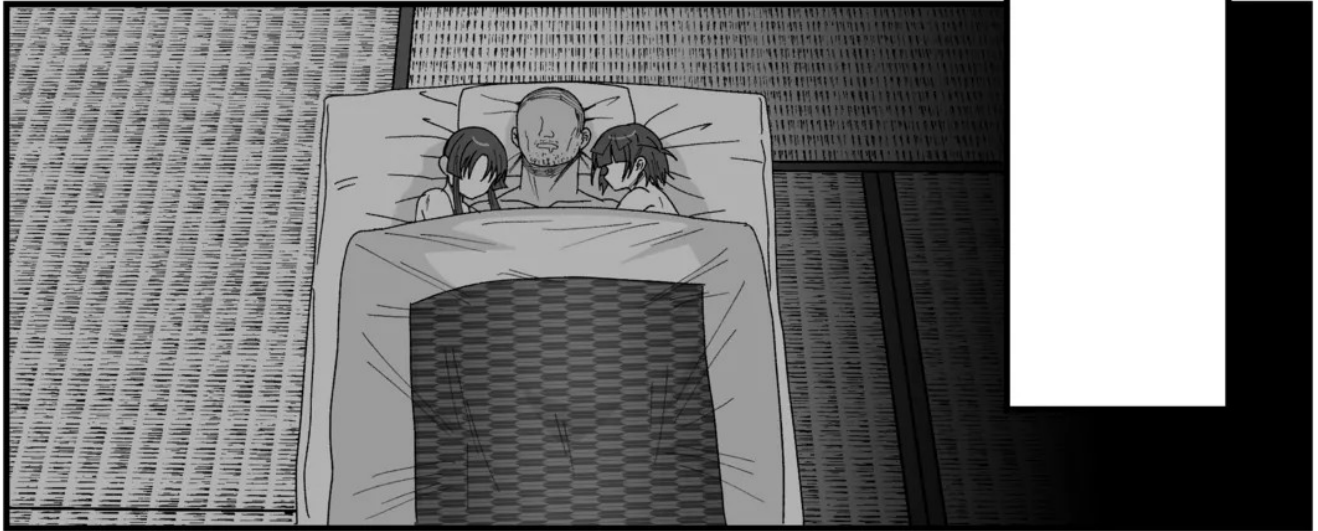
♡ちゅ♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡♡



7

♡ちゅ♡♡







はあ!?

俺に  
継げって!?

荒樫弥二郎  
齡十七



そうだ  
今日からお前が  
荒樫亭の主人だ

博打なんか  
やめて  
真面目に働け

そりゃないぜ  
叔父様!

親父様の跡は  
弟の叔父様が  
継ぐって話じゃ  
なかったのかよ!

俺あただの  
養子だぜ!?



身寄りのない  
てめえを  
誰がここまで  
育てたと  
思ってる?

こんな歳まで  
フラフラ  
遊び歩きやがって

少しは恩を  
返やがれ

うう……っ

ふざけんな

ボロいし  
客は来ねえし……  
なんだつて俺が  
こんな宿……

確かに俺は  
十二で拾われてから  
ずっとと親父様に  
付いて回ってたから  
多少は顔が効くし  
勝手はわかる

けど板前も  
女中もいなけりや  
番頭だった  
叔父様も逃げた

こんなの  
潰れる寸前に  
押し付けられた  
ようなもんだ

はあ……  
夜逃げでも  
すつか……



なんだ  
こんな時間に

お願い

助けて……!

お客さん  
今夜はもう……

カ  
ラ  
ッ



とりあえず  
入れ  
話は後だ

お前たち  
親は？

兄弟って  
感じでは  
ないよな

名は  
なんという？



……？  
なんだ……？

名前がないわけ  
ないだろう

そもそも  
こいつは  
なんでこんな  
怪我してる？



……石を  
投げられた



はあ？

どうにも話が  
噛み合わん



ただそこに  
あったものを  
食べただけ

住んでただけ  
なのに……



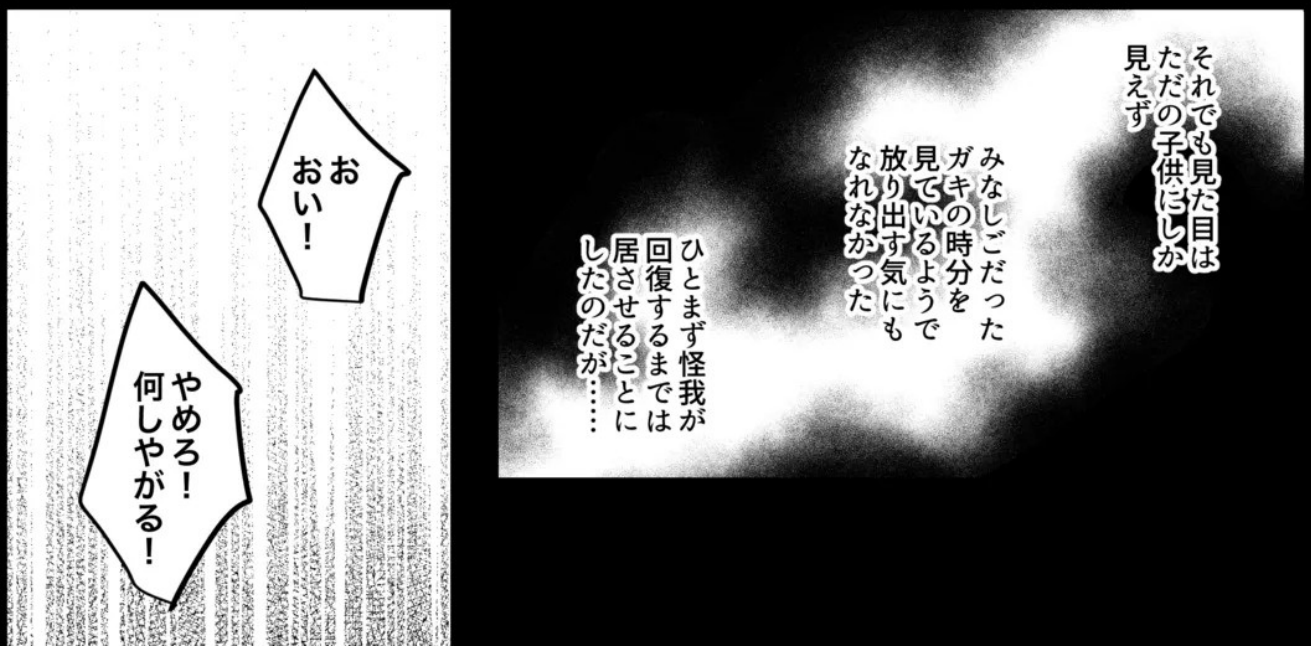


俺たちは妖怪や



その瞬間

この二人が  
一気に気味の悪い  
存在に思えた



それでも見た目は  
ただの子供にしか  
見えず

みなしごだった  
ガキの時分を  
見ているようで  
放り出す気にも  
なれなかった

ひとまず怪我が  
回復するまでは  
居させることに  
したのだが……

おい！

やめる！  
何しやがる！



匿ってくれた  
お礼だよ



稚児趣味なんざ  
ねえよ!

遠慮しないで  
いいよ

これが人間の  
ご恩返し  
なんでしょ?



ふーん?  
元気やなあ  
なかなか  
暴れん坊  
ちゃうん?

今まで  
見た中でも  
結構大きいね



人間の男は  
こないして  
甘やかされるんが  
好きなんやろ?

寺のお坊はんは  
えらい喜んでた  
けどなあ

どこの腐った  
坊主だ!

俺にその趣味は  
ねええええ!

いいから  
いいから



やっぱり  
喜んでるじゃん  
よかったあ!

こんな得体の  
知れない奴らに  
イカされる  
なんて……!

くそっ  
情けねえ……

それから  
少しの間

行く宛もなければ  
絶る人もない同士

いつしか床を  
共にするようになつた



不思議なことに  
こいつらが  
転がり込んで  
きてから  
客入りがいい

気つきや  
毎日帳簿と  
にらめっこだ

俺も心を  
入れ替えて  
真面目に  
働き始めた

稼ぎが出りや  
気持ちも  
浮くもんで……





たつ？

弥二郎はその娘が好きなの？

そうだ！



たつってどの娘だっけ

ほらよく俺ん家に来るいっとう可愛い娘がいるだろう



俺はたつを嫁にしたいと思ってる

だからお前らとのこういう関係は切らなきゃいけねえ

なんで？

そういうもんなんだよ人間は



可愛いとか言われてもわかんないよね

人間の美醜なんぞ俺らにはピンと来んわ

可愛いいたら可愛いんだよ！



あの独特の匂いの娘やな

匂いで覚えてんのかよ確かにあいつの家は染物屋だけだよ

というかそんな匂い感じたことねえぞ



あいつも俺を想ってくれてんのがわかるんだ

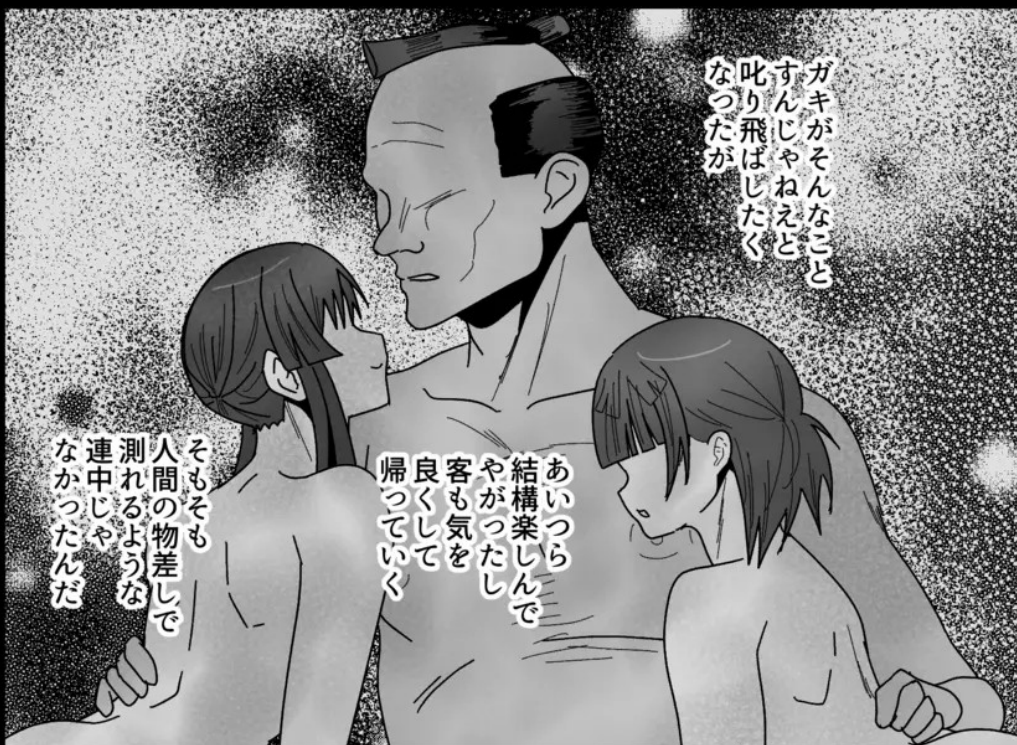
大事にしてえ……



なんか幸せそうだね

でもなあ……今の稼ぎじゃ祝言のひとつも挙げられんやろ？

……じゃあ僕たちもつとがんばらなくちゃ！



ガキがそんなことすんじゃねえど叱り飛ばしたくなつたが

あいつら結構楽しんでやがったし客も気を良くして帰っていく

そもそも人間の物差しで測れるような連中じゃなかったんだ



繁盛の理由は明白だった

あいつら夜な夜な客の布団の中に忍び込んでやがる



それから  
この宿には  
いいことばかり  
起きた

働く仲間も増え  
たつを嫁にもらい  
子宝に恵まれ

荒檉亭は  
連日繁盛した

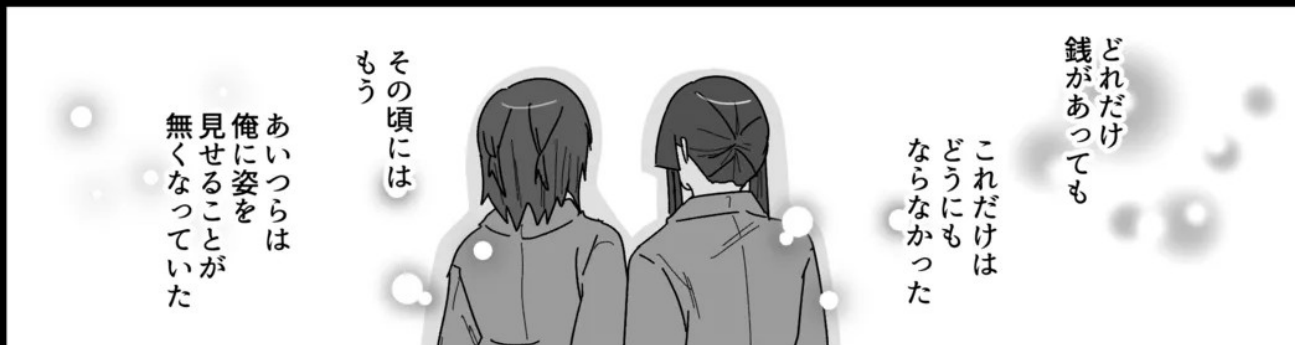
もう銭に  
困ることは  
無くなった



俺は  
病を患った

あいつらが  
この宿に福を  
呼んでくれたんだ

そんな日々が  
十年以上も  
続いたある頃



どれだけ  
銭があっても

これだけは  
どうにも  
ならなかった

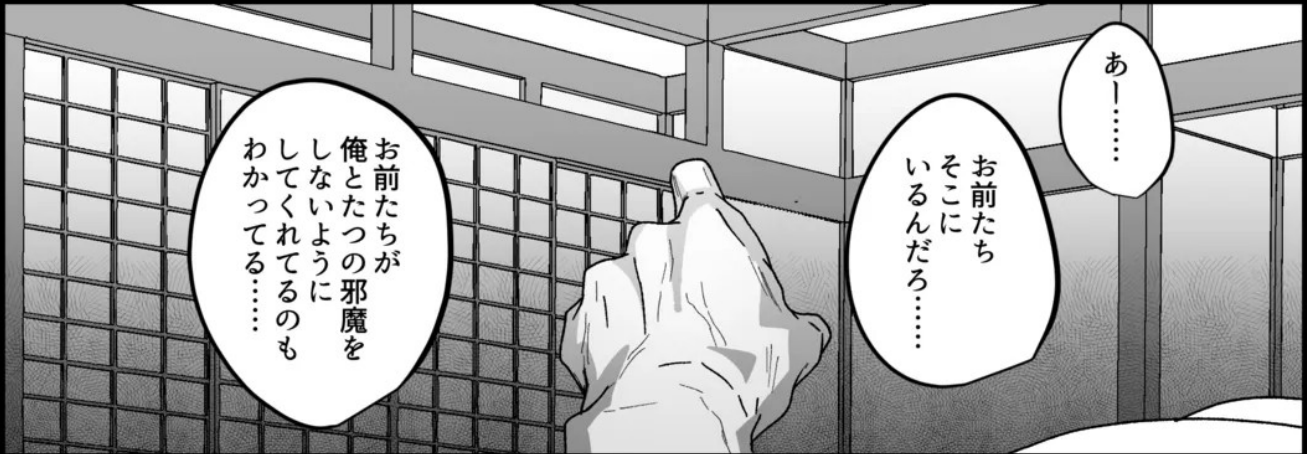
その頃には  
もう

あいつらは  
俺に姿を  
見せることが  
無くなっていた



あんた  
寝てなよ

いや……いい  
ちよつと一人に  
してくれるか



お前たちが  
俺とたつの邪魔を  
しないでように  
してくれてるのも  
わかってる……

お前たち  
そこに  
いるんだろ……

あ……



ありがとよ……

……  
……  
……



お前らが  
転がりこんで  
きてから

ずっと幸せな  
人生だったよ……

お前たちの  
正体……  
本当に座敷童  
だったんだな

妖怪なんて……  
ただの作り話だと  
思ってた……



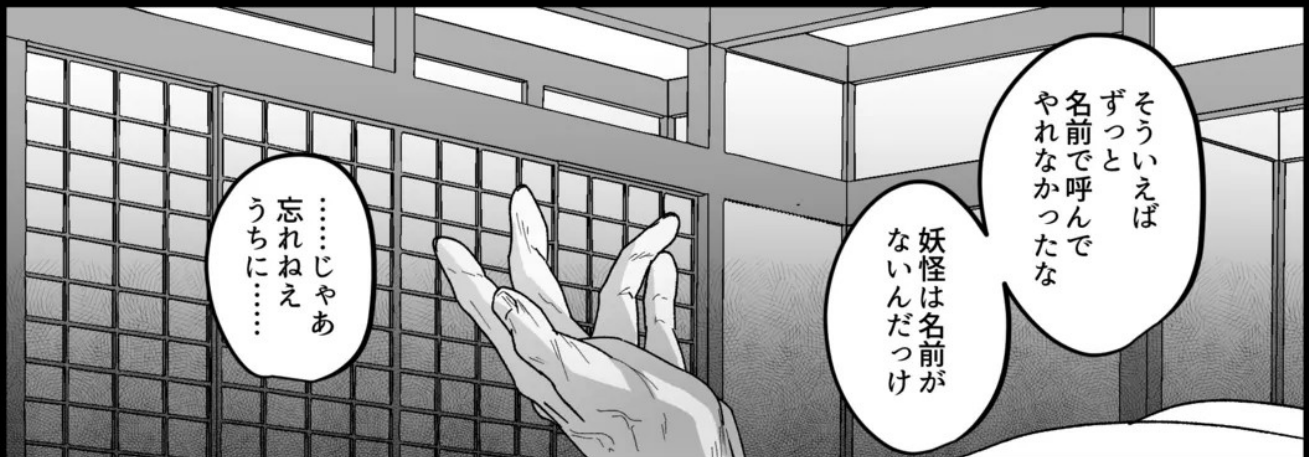
どうか……  
見守ってくれ

俺の子孫を  
俺の宿を……

それが俺の  
最後の願いだ……

俺の子から  
またその子へ……

俺はもう  
永くはないが  
この宿は  
続いていく



そういえば  
ずっと  
名前で呼んで  
やれなかったな

妖怪は名前が  
ないんだっけ

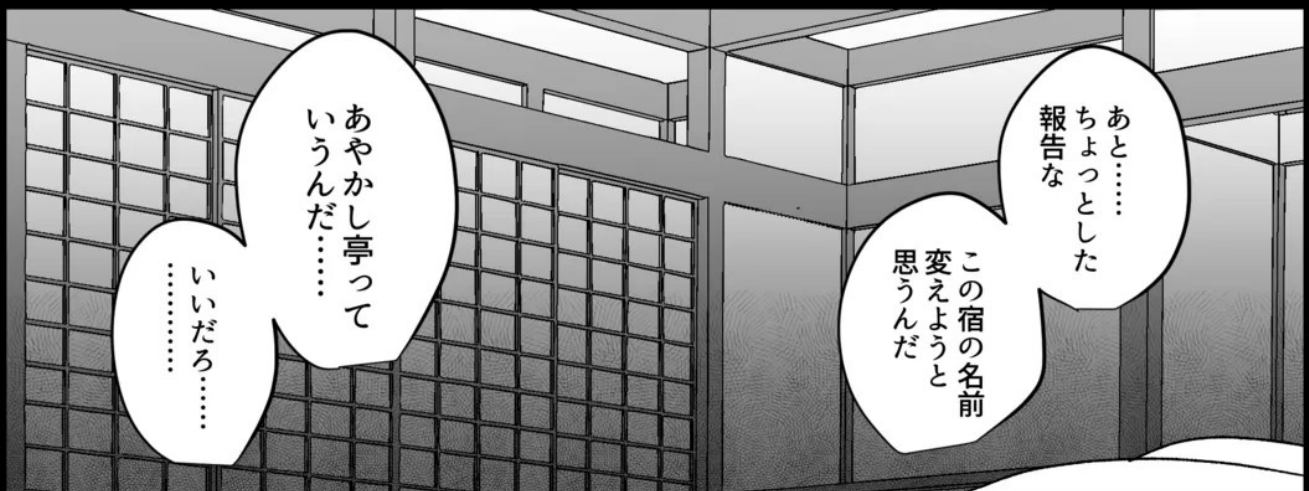
……じゃあ  
忘れねえ  
うちに……



おかつぱの  
お前は……  
琥珀みてえな  
瞳の色だから  
琥太郎

切長目のお前は  
桂の木みたい  
手足がすらっと  
してるから  
桂だ……

……どっちも  
好きだった  
ところだ……



あと……  
ちよつとした  
報告な

この宿の名前  
変えようと  
思うんだ

あやかし亭って  
いうんだ……

……いいだろ……



……なんやねん  
その名前

弥二郎が僕らに  
与えてくれたのは  
名前だけじゃない

僕たちは  
確かに  
あの瞬間

ただの  
妖怪から  
座敷童に  
なれたんだ

二〇二五年

そして今も  
俺たちは……

ほほう♡  
こりゃあ  
たまらんわい♡

ほんま  
意地悪やな……♡

どこまで喘がせたら  
気が済むん……♡

むっほっほ♡  
よう締めおって♡  
わしのチンポに  
惚れたかあ？

ほっ♡  
ほっ♡  
ほっ♡

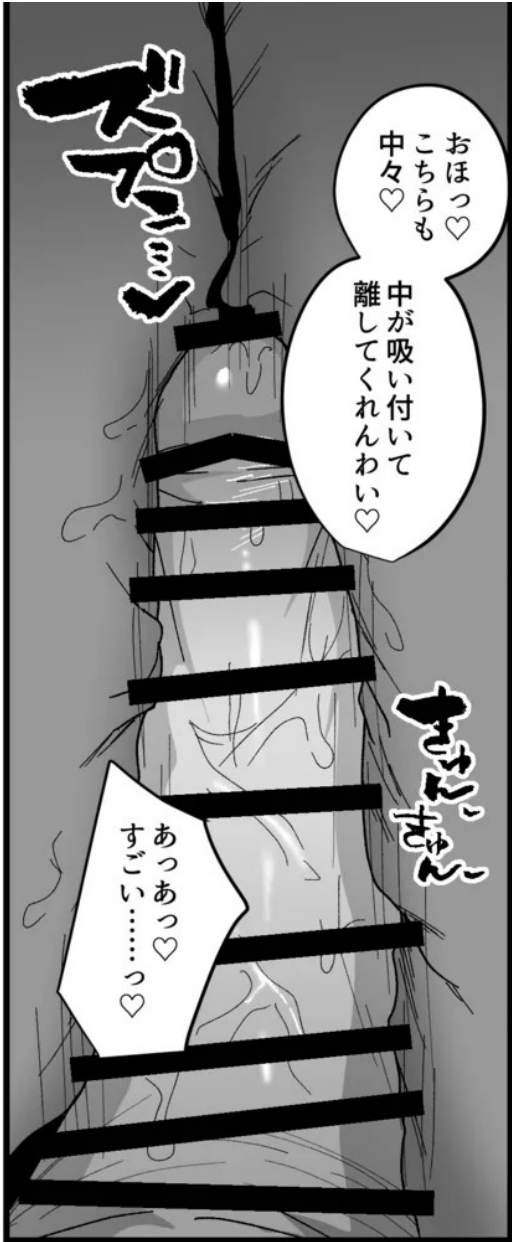
ケツの奥が  
びくびくしとる♡  
こんなのは  
初めてじゃのう……♡

ふい♡  
ふい♡

はあっ  
やば……♡

はああんっ♡

カッ♡  
カッ♡  
カッ♡



おほっ♡  
こちらも  
中々♡

中が吸い付いて  
離してくれんわい♡

あっあっ♡  
すっごい……っ♡



次は僕に  
ください♡

ふふふ♡

どっちの穴が  
気持ちええか  
比べてもろて  
ええよ♡

おお♡  
愛いのう♡



あっ  
だめえっ♡

ずんずんっ♡  
ぼくのお腹  
いっぱい  
されちゃう……♡

おっきいの  
クセに  
なっちゃうう♡



ぬっほおっ♡  
たまらん……っ♡

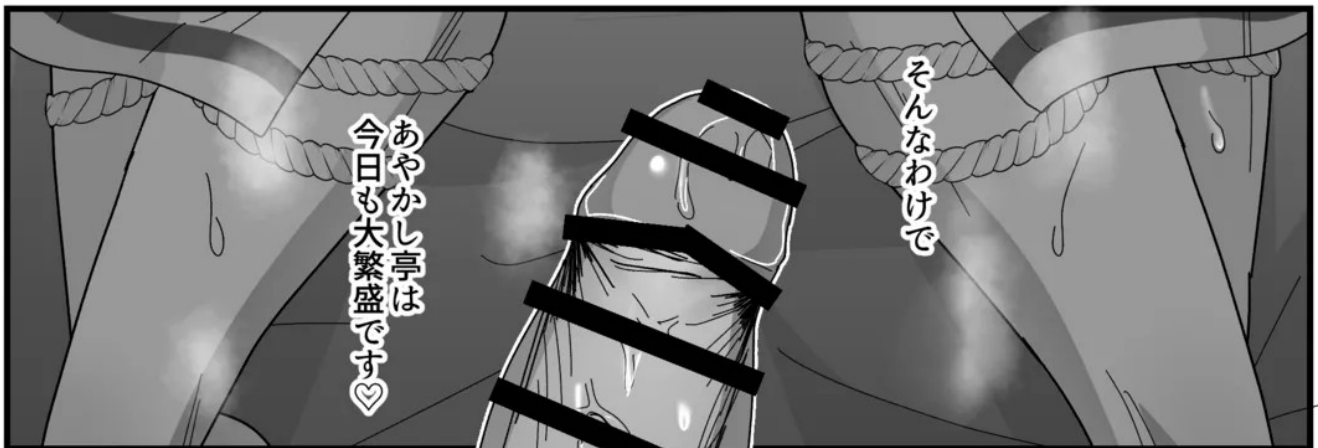
イッくぞお!  
濃い射精るっ!

イク……っ♡  
イクう……っ♡



わしのチンポ  
まだまだ  
元氣じゃろ？

ほれ三発目  
いくぞい♡



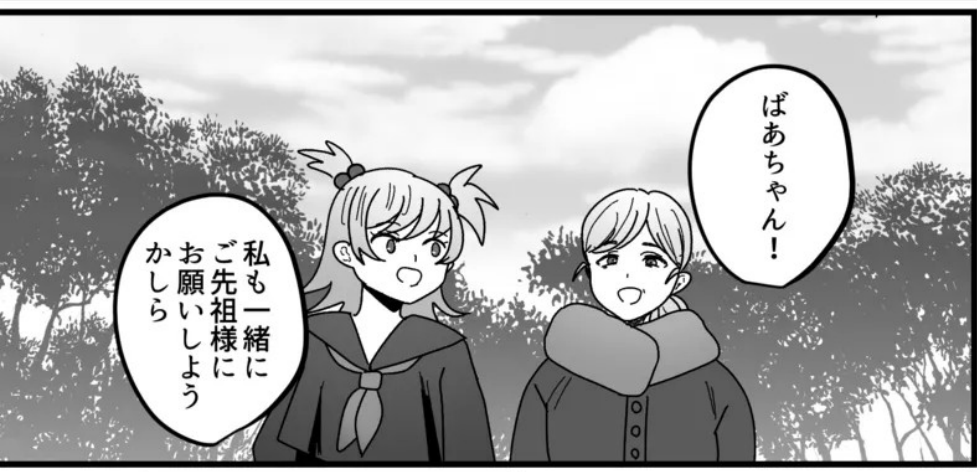
そんなわけで

あやかし亭は  
今日も大繁盛です♡



お願いします  
ご先祖様……!!

調理科のある  
高校……  
絶対絶対対  
受かりたい……!!



ばあちゃん!

私も一緒に  
ご先祖様に  
お願いしよう  
かしら



まあまあ  
そんなに  
心配しなくても  
大丈夫よ



ふふ  
待ってるわ



修行して  
いっぱい  
勉強して

絶対  
あやかし亭に  
帰ってくるから!



……  
ばあちゃん  
私……

ばあちゃんの  
ことなら  
任せて



幼い頃  
確かに会った

ご先祖様の  
お墓にいた  
不思議な男の子



もうすっかり  
見えなく  
なっちゃった  
けど……

きつと今も  
見守っていて  
くれてるよね

……  
うん

行ってきます!